

美と感動に出会う美術館

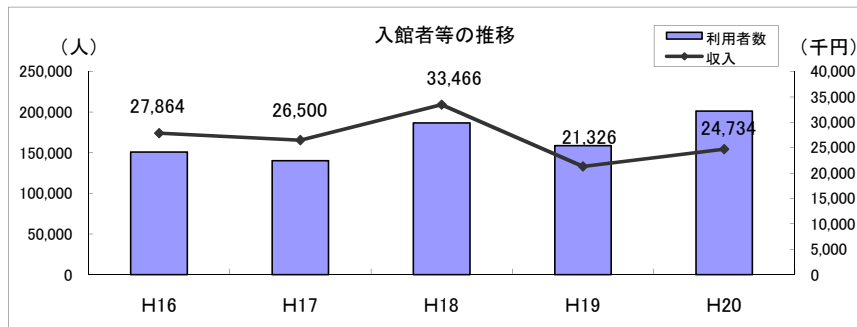
| | | | |
|--------------------|--|--------|---|
| 所在地 | 福井市文京3丁目16-1 | | |
| 設置年月日 | 昭和52年10月1日 | | |
| 施設の種類 | 美術館 | 施設管理主体 | 県 |
| 設置の目的 | 美術に関する県民の知識および教養の向上を図り、もって県民の文化の発展に寄与する。 | | |
| 概要 (構造、面積、主な機能) | 鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延6,627㎡ 駐車場127台、常設展示室、貸展示室、研修室、会議室、講堂 | | |
| 職員数 | 正職員8人、非常勤嘱託2人、事務補助1人、アルバイト4人 計15人 | | |

利用状況等

| | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 利用者数(人) | 150,817 | 140,418 | 186,928 | 158,740 | 201,531 |
| 収入(千円) | 27,864 | 26,500 | 33,466 | 21,326 | 24,734 |

利用者負担(利用料金)等

| | | |
|------------|------|---------|
| 観覧料 使用料 | 常設展 | 100円 |
| | 企画展 | 美術館HP参照 |
| | 展示室等 | 美術館HP参照 |



| | |
|-------------|--|
| 利用状況 の推移 | 平成17年度は、企画展、貸館利用はほぼ横ばいで推移したものの、テーマ展の入場者が半減し前年度比6.9%減となりました。 |
| | 平成18年度は、企画展で「水木しげる」、共催展で「黒澤明」などの開催により入場者が大幅に増加し、前年度比33%増となりました。 |
| | 平成19年度は、貸館利用は増加したものの、共催展の開催がなかったことや企画展の入場者が平年並みだったため、前年度比15%減となりました。 |
| | 平成20年度は、日展、院展などが開催されたことから、前年度比27%増となりました。 |

施設の特徴

展示会の開催

- ・収蔵品を中心にテーマを決め、年間を通して常設展示室でテーマ展を開催しています。
- ・美術館独自の調査・研究による企画展(特別展覧会)を年に4回程度開催しています。
- ・県内各地域で美術鑑賞の機会を提供する移動美術館を年に3回開催しています。
- ・他の機関、事業者と共同で開催する共催展を開催しています。
- ・館蔵品を県内各学校や公共施設等で展示、解説するふれあいミュージアム事業を開催しています。

教育普及活動

- ・作品制作の初歩的な基礎を学ぶ日本画、洋画、彫刻の各基礎講座を開催しています。
- ・作品制作の経験があり、さらに専門的に学ぼうとする者を対象とした日本画、洋画、彫刻の各専門講座を開催しています。
- ・各企画展で講演会やワークショップ、ギャラリートークなどを開催しています。

施設・設備の提供

- ・創作グループ等の創作、研究活動の場として研修室を提供しています。
- ・創作グループ等の発表の場として展示室を提供しています。

収集活動と情報提供

- ・所蔵品検索システムにより、各家庭からでもインターネットを通じて所蔵品の検索ができます。
- ・福井の風土と歴史から生まれた美術資料および福井にゆかりのあるすぐれた美術資料の収集と保存を行っています。
- ・国の内外、時代を問わず、すぐれた美術資料の収集と保存を行っています。

調査・研究

- ・美術資料に関する学術的な調査・研究や保存、展示に関する技術的な研究を行っています。
- ・美術資料に関する解説書、図録、研究報告書などを刊行しています。

県立美術館ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>

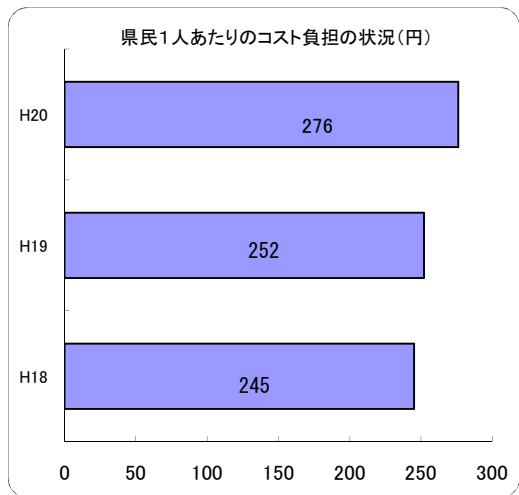
平成20年度の特徴について

| | |
|------|---|
| 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品によるテーマ展(常設展)を年間10回開催し、24,036人が来館しました。 ・企画展(特別展覧会)を年間4回開催し、17,927人が来館しました。 「土田ヒロミのニッポン」5/2~5/25 4,918人 (4,523千円) 「大江戸の賑わい」8/2~8/24 3,374人 (8,905千円) 「国立美術館巡回展」11/14~12/14 7,126人 (4,536千円) 「川喜田半泥子となかまたち」2/27~3/29 2,509人 (10,629千円) ・優れた美術作品を鑑賞する機会が少ない嶺南地域で、移動美術館を年間3回開催しました。(小浜展2回 8/6~8/17、2/26~3/9 敦賀展1回 9/7~9/20) ・ふれあいミュージアムを、県内学校など11ヶ所で開催しました。 ・美術館の展示室を利用した美術愛好家や各種団体が主催する展覧会が、年間約100回開催され、125,828人が来館しました。 ・日本画・洋画・彫刻の3部門で、実技講座の基礎講座を各10回、専門講座を各25回開催し、74人が受講しました。 |
|------|---|

福井県立美術館(2/2)

行政コスト計算書(平成20年度) (単位 千円)

| | | 総額 | 構成比 | 前年比 |
|----------|-----------|---------|--------|--------|
| 人にかかるコスト | 人件費 | 95,091 | 38.9% | 101.1% |
| | 退職給与引当金繰入 | 88 | 0.0% | -91.7% |
| | 賞与引当金繰入 | 4,074 | 1.7% | 皆増 |
| | 計 | 99,253 | 40.6% | 105.7% |
| 物にかかるコスト | 物件費 | 87,937 | 35.9% | 102.0% |
| | 維持補修費 | 15,196 | 6.2% | 317.9% |
| | 減価償却費 | 38,153 | 15.6% | 100.1% |
| | 計 | 141,286 | 57.7% | 109.5% |
| その他 | 支払利息 | 0 | 0.0% | — |
| | その他 | 4,123 | 1.7% | 90.5% |
| | 計 | 4,123 | 1.7% | 90.5% |
| 合計 | | 244,662 | 100.0% | 107.5% |
| 収入 | 利用料等収入 | 20,824 | 8.5% | 107.5% |
| | 一般財源 | 223,838 | 91.5% | 109.2% |

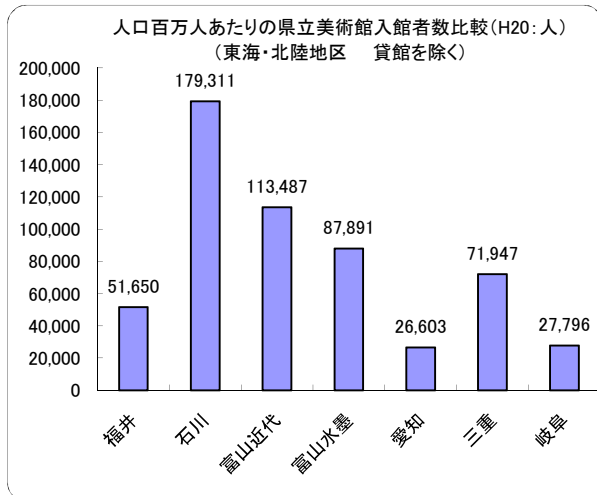


バランスシート(平成21年3月31日現在) (単位 千円)

| 借方 | | | 貸方 | | |
|--------|-----------|--------|-----------|-----------|-------|
| 資産 | | 前年比 | 負債 | | 前年比 |
| 有形固定資産 | 5,103,999 | 99.8% | 固定負債 | 56,255 | 88.5% |
| うち土地 | 562,080 | 100.0% | うち退職手当引当金 | 56,255 | 88.5% |
| うち建物 | 858,037 | 96.0% | | | |
| うち美術品 | 3,606,780 | 100.7% | | | |
| 投資等 | 0 | — | 流動負債 | 11,451 | 皆増 |
| 流動資産 | 0 | — | 純資産 | 5,036,293 | 99.7% |
| 計 | 5,103,999 | 99.8% | 計 | 5,103,999 | 99.8% |

主な指標 (単位: %、円/人)

| | H20 | H19 | 前年比 |
|----------------|-------|-------|--------|
| 県民1人あたり有形固定資産額 | 6,282 | 6,275 | 100.1% |
| 県民1人あたり将来負担額 | 69 | 78 | 88.5% |
| 世代間負担率 | 98.7 | 98.8 | 99.9% |



| | |
|---------------------|--|
| バランスシート、行政コスト計算書の特徴 | <p>行政コスト計算書の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物件費は、全体的な節減に努めましたが、所蔵品検索システムの導入などのため、前年度比102.0%と微増になりました。 ・維持補修費は、空調自動制御機器と消防設備の大規模修繕を実施したため、前年度の約3倍と大幅増になりました。 ・利用料等収入は、企画展(国立美術館巡回展等)による入館者数増などにより前年度比107.5%と増加しました。 <p>バランスシートの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産のうち、開館以来収集した926点の美術品が全体の7割を占めています。このうち約3割が岡倉天心ゆかりの作品となっています。 |
| 施設の目的上、管理運営上、主要な事業 | <p>管理部門： 施設の維持管理、美術資料の保管と管理 【H21予算額：約73百万円】</p> <p>事業部門： 調査研究事業 … 美術資料の調査研究と購入 【H21予算額：約42百万円】 企画展開催事業 … 企画展(4回程度)、移動美術館(3回)の開催 【H21予算額：約47百万円】 教育普及事業 … 講座、ワークショップ等の開催 【H21予算額：約3.5百万円】</p> |
| 今後の課題 | <p>(幅広い年代層の新規入館者の開拓)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常連の入館者はコンスタントにありますが、総入館者は企画展の入館者数により変動しています。若年層の来館者数が少ないため、幅広い年代層の来館者の増加を目指す必要があります。 (施設の維持管理とバリアフリーへの対応) ・昭和52年の開館以来30年以上経過し、施設が老朽化しています。また、高齢者や身障者等の来館者も増えていますので、バリアフリーの施設としてエレベーターの設置が必要になっています。 (所蔵品の充実と情報発信) ・公立美術館としてまだ所蔵品が十分と言えないため、今後、所蔵品の充実にも努めるとともに、個性と魅力あふれる美術館、県民や観光客等に親しまれる美術館として存在感を高め、情報を発信していく必要があります。 |
| 今後の事業方針、取組み内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、岡倉天心が率いた日本美術院の画家達の作品の収集に力を入れてきており、この分野のコレクションでは全国的に著名になっています。今後は、更に収集の範囲を広げるとともに、これまで以上に美術品の寄贈や寄託を増やし、県民の多様なニーズに応える美術館を目指していきます。 ・新規入館者の開拓やより親しまれる美術館を目指し、県民の多様なニーズに応えるため、様々な分野の魅力ある企画展の開催に取り組みます。 ・子供が美術に親しむ機会を増やすため、近年、ふれあいミュージアム事業の開催や、夏休み期間の子供向け展覧会の開催を行っています。今後もこれらの事業の開催を通して、子供が美術に親しむ機会が増えるよう努めていきます。 |